

ウクライナに
平和を

正当化できない

ロシアのウクライナ侵略

深刻な国連安全保障理事会の機能不全

ロシアのウクライナ侵略は、いかなる理由があれ世界は正当化しないことを国連総会緊急特別会合(3月2日)で確認された。つまり「ロシアによるウクライナ侵略を非難する決議」を賛成多数で採択した。193カ国中、賛成は141カ国。反対はベラルーシ、北朝鮮、エリトリア、ロシア、シリアの5カ国であり、棄権は中国やインドなど35カ国であった。

その投票結果が会場のモニターに表示されると、議場からは大きな拍手が沸き起ったと報じられていた。そして振りかえって考えてみよう。

ロシアは隣国ウクライナのNATO加盟に強く反対をしていた。ウクライナに欧米の軍事施設が配備された場合、ミサイルがモスクワに到達する時間が「七分が十分」。ロシアにとっては、安全保障上重大な脅威になる。ウクライナやNATOからすれば防衛力の強化だが、ロシアにとってはそれが脅威となる。他国の力の増大に脅威を感じ、これを恐れて行動する。この安全保障のジレンマを避けるため、第2次大戦後の世界は国家同士が協力、対話をする以外にないという合意を確認した。

そして今般、ロシアによるウクライナへの侵略は、

プーチン大統領が、ウクライナ東部の2地域の独立を承認したことに始まった。このことについてケニア大使は次のように述べている。

「この状況は私たちの歴史と重なる。私たちの国境は自分で引いたものではない。ロンドンやパリ、リスボンなど、植民地時代のはるか遠くの大都市で引かれたものだ。アフリカは欧州列強の植民地支配を受け、列強同士が勝手に決めた国境によって分割された。大国の利益や安全保障の手段として小国が利用された歴史を繰り返してはならない」と非難をした。(琉球新報・2月25日社説)

冷戦が終結し、世界の共存の枠組みとして、主権の尊重、国際法の順守という現在の国際秩序が定着した。そのことは「要求を受け入れられなければ、武力を行使しても力づくで屈服させる」というやり方は許されないという合意の結果であり、国連が誕生し、世界の平和と安全に責任を持つ国連安全保障理事会が設置された。だがその安保理事會が、ウクライナ情勢を巡る緊急会合を開いていた真つ最中に、責任を果たすべき常任理事国のロシアがウクライナに軍隊を進めた。NATOへの加盟をもって進められるだろう、ウクライナの新たな体制とその波及が、自国のロシアに及ぶことを阻止するためであることを知る必要があるだろう。

忘れない・10万人の命が奪われたことを!!

一方、ロシアがウクライナに侵攻すれば、その衝撃と動揺は世界中に広がる。その反響は東アジア、とりわけ台湾にも及ぶであろう「ことを危惧するジョンソン英首相の発言がある。それは台湾への威嚇を強める中国を念頭に置いたものである。」

また、「ブタペスト覚書」がある。それはソ連崩壊時に、ウクライナが自国内にあった核兵器を放棄する代わりに、自国の主権の尊重と武力行使や威嚇をしないと定めたものであった。しかし今回のロシアの侵略は、「核兵器保有国としての立場」を自ら放棄して得たウクライナの主権が、もの見事に踏みじられたということになる。そのことは「決して核を手放してはならない」ということへのメッセージとなった。「核廃絶を求める全世界の国民」にとっては重く受け止めなければならない事実である。

そして圧倒的な軍事力をもって、国境を犯し、街を破壊し、多数の民間人を殺傷するロシアの行為は、まさに「無差別殺人・侵略」である。

かつて日本国内の都市焼き打ち命令をした米空軍参謀総長のルメイは、部下に「この戦争に負けたら我々は戦争犯罪者だよ」と語ったという。その大殺傷攻撃を受け「ひと夜にして10万人の命を奪った米軍の東京大空襲」から77年目になる。「戦争とはそう言うものである」とことを忘れてはならない。

3・16福島県沖地震、被害はありませんでしたか。しばらくは要注意です。枕元に衣服、頭を覆う座布団、厚手の靴下・スリッパ・懐中電灯を。

【気づいたこと、感じたこと】

夫の生存を確かめウクライナへ

ウクライナは土壤の6割が黒い土である。第2次大戦中侵攻してきたナチスが、土を貨車で運び出そうとしたという逸話が残るほどの肥沃な土地が広がる。土が黒いのは枯れ草などの有機物を微生物が分解したあとに残る「腐植」という物質が多いからであり、腐植は養分を蓄える力を持っている。ウクライナは大麦、小麦、トウモロコシ、油の原料となるヒマワリの種などの世界有数の産地である。

そこで思い出すのが、名女優ソフィア・ローレンの美しさと、広いひまわり畑と、有名なメロデーと共に映し出された映画「ひまわり」である。

1970年に公開された。そのロケの場所はウクライナ南部の都市「ヘルソン」である。

第2次世界大戦で行方不明となった夫の生存を信じるイタリア人妻が、激戦の地ウクライナを訪れる。やっと捜し出した夫は、ウクライナの女性と新しい生活を送っていた。戦争によって引き裂かれた夫婦の悲哀。そして映画の中で、その女性が美しいひまわり畑を前に語る言葉がある。「このひまわり畑の下には多くの兵士や捕虜たちの死体が埋まっているの」。そして2022年3月2日、その映画のロケ地「ヘルソン」はロシア軍に制圧された。戦争で大きな被害を受けるのは、敵・味方を問わず、いつも子どもを含む普通の人たちだ。

原子力発電所が軍隊に攻撃された！

3月4日午前、ウクライナ共和国南部にあるザポロジエ原子力発電所がロシア軍による攻撃を受け、建屋が被弾、火災が発生しているという緊急速報を目にした。原子炉本体への影響は幸いにして無く、火災も鎮火したとのこと。そしてウクライナ人の労働者が、銃口を突きつけられながらも操業を続けていると報じられていた。

その気がなくても現地指揮官、現地将兵がおかしな考えを持てば、商用原子力発電所は「皆殺し装置」にもなる。だからこそ、商用原子力発電所・発電施設はジュネーブ条約で攻撃が禁止されており、ロシアも条約批准国である。つまり原子力発電所への攻撃は明確な国際法・条約違反である。

「虚偽の報道が満ち溢れている中でウクライナ情報であるが。絶対に行つてはならない行為である。そして「毎日新聞・余禄」(3月11日)の記事を目にした。南相馬市の詩人若松丈太郎さん(2021年に死去)のチエルノブイリ原発を視察した後発表した詩、「神隠しされた街」がある。

「4万5千の人びとが2時間のあいだに消えた」サッカーゲームが終わつて競技場から立ち去つたのではない／人びとの暮らしがひとつの都市からそっくり消えたのだ——中略——神隠しの街は、地上にいつそうかえるにちがいない／私たちの神隠しはきょうかもしれない／広場にひとり立ちつくす……」。

後に3.11の予言詩と言われた連詩の一篇である。



報告・提言のひろば

■連日の寒さそしてオミクロン大変です。小生戦中生まれですが、誕生一年後に終戦、従つて戦争の記憶はございません。ある意味で幸せ？なのでしょう。亡き親父が、北支へ2度出征した時の悲惨な戦争体験を良く聞かされました。お袋は戦争が無ければ、福島への疎開も無かつたと良く愚痴を溢していた事を思い出します。戦争は誰も得をしないのです。第3回の予防接種、一昨日予約が取れ3月1日接種します。3度目も「ファイザー」で「モデルナ」では無い様です。とにかく打てる事を「よし」と思います。

■喜多方市政を考える会は、議会前に主な審議事項や一般質問について報告を受け、参加者と意見交換を行う場が定例化されています。今回は猪苗代町の渡辺二公さんも参加されました。「町内全ての小・中校が閉鎖され、どこにも出られなかつたとのこと、ようやく終息の方向に向かつているが油断はできない」と報告されました。喜多方市議会の3月定例会でも斎藤仁一市議(社民党総支部代表)が「新型コロナウイルス感染症対策について」質問します。特に「子どもの学びの確保、安否確認、食事の確保の確認」などをどのような体制で対応しているのか等、数点について質問します。今、学生には「タブレット」が渡されていますが、その活用は不十分です。また年寄と同居していない世帯の子どもが安否が心配です、学級閉鎖解除後



のPCR検査の徹底等。喜多方市の新年度(予算)については「コロナ対策事業」や「総合戦略事業」等、特出した事業展開について説明されていますが、「地域の医療体制」についても、公的医療機関による「訪問看護」が行き届かない実態があります。また「地域公共交通(デマンド交通)」の見直しについても提起されましたが、未だその制度活用に対する理解が不十分な実態にあり、どう向きあうか等課題は山積です。

■いつまでも降雪が続いている会津です。我が家のような農村部でも除雪した雪のやり場がなくなっています。元気な高齢者は、トラクターや除雪機を使いこなしていますが、病や体力のない方々にとってはこの除雪作業は大変です。喜多方市では、高齢者世帯等への除雪支援のための補助をしています。3段階に分けて補助をしています。平地(10時間分)中山間地(14時間分)豪雪地(18時間分)となっています。また、自己負担は30分あたり手作業120円、機械作業400円です。今年のような豪雪の場合、追加して支援券を出しています。大切な支援です。党県連の大会(オンライン)には各総支部から意見や要望が出されました。どんなに小さくなくても、丁寧な議論の積み重ねは必要です。これがなくなったら組織は停滞してしまいます。一番身近な自治体で、社民党が市民の声を代弁しているのが問われます。OB・Gニュース3月号を次回の社会新報に同封します。

■いつもながら、充実した通信ありがとうございます。ゆつくり読ませていただきます。部分的に引用

させていただくことがあるかもしれません。ご了解ください。

■連日のOB・Gの活動、敬意を表します。

■問題は、やはりワクチンを「打てるところからどんどん打つことをしなかつた」点だと思えます。第5波がなぜか急激に収束し、政府・厚労省は甘くみて、横並びの接種間隔に固執していたのだと思えます。福島県が4月末までのワクチン量はあるとしても、第6波には手遅れだったということだと思えます。感染者数はともかく、重症者、死者の急増がそれを示していると思えます。

■「蟹は己の甲羅に合わせて穴を掘る」と言います。自らの場所で力量にあつた方法でできることをする、その一つが地方分権の場での点検闘争であることと指摘まさにその通りと感じます。自らを振り返れば、そのような行動が全くできていないのが現状です。

■尼崎市のコロナ感染も一日600〜700人が続いています。確かにピークは過ぎた感がありますが、なかなか下がりません。関西でいえば大阪が下らなければ、通勤通学の多い尼崎では下がることは不可能と思っています。また、自宅療養が増え家庭内感染で子どもへ、そして子どもから子どもへ。そして家族へと感染です。5歳児から12歳までのワクチン接種も推奨で家庭に接種券が送付されまです。効果はあっても安全性が確認されているわけではないので、集団接種はなく、かかりつけ医で医者との相談のうえでという条件はありますが、孫には打たせたくありません。本当は今こそ2週間程度

の学校休校がいいのですが。2月の初旬に市内の小中学校で80クラスが学級や学年閉鎖、その上2学校の閉鎖。なぜ先生へのワクチン接種を優先しないのかと言ひ、保育所等保母さんも含め優先接種になりました。それでも2月25日からです。第5波が終わった時の総括で、市は自宅療養者用のパルスオキメーターをそれまでの100個から1000個に増やします。食糧支援も5000人分としました。来年度予算ではパルスオキメーターを5000個、食糧支援を15000人分とします。保健所も、お手上げ状態と言つても過言ではありません。

■季節は足早に通り過ぎてゆきます。2月5日に「モデルナ」で、連れ合いと3回目の接種を終わりました。何の変化も感ずることなく順調です。大分は「まん延防止重点措置」が2月20日までで終了し、一時は一日当たり500名を超えていたものが21日現在243名と半減しています。津久見市は、人口1万5千名中3名となっています。まだ、まだ油断はできません。「3.11命の輪・さようなら原発大分実行委員会」の主催による集会在3月6日に大分市で開かれますので行く予定です。「トリチウム」等を含む処理水の海洋放の方針の再検討を求める署名の運動にも取り組んでいます。4月には、お隣の臼杵市の市議選があります。やれる範囲で頑張ります。

■①ワクチン接種が遅いという指摘はその通りだと思います。一般市民の目線は、六カ月に前倒しにするという政府の表明が、地方の自治体に伝わ

ていないのではと懐疑的にみていると思います。そこには、ころころと変わる一貫性のない政府方針に問題があると考えます。②社民党への支持者は「積年の存在」であるとの受け止めは同感です。「まだまだ捨てたものではない」との後押しは現状があります。その期待に応えることが大事です。大方は前回衆議院選の比例投票より、今回の比例投票が上回るとは思っていないかつたでしょう。③「ロナ禍は別としても、集会やデモ行進など『見える化』、『見える化』の運動が少なくなっています。改憲阻止の政治課題では是非取り組んでいただきたいと思っています。④毎号の「報告・提言コーナー」の内容は、読者の生の声が聴かれて相互信頼が図られます。続けていたいただきたいと思います。党中央や県連合においても、マスメディアへの露出が不十分であり克服することを求めます。

■送られたニュースは、足がないので同志の協力で配っております。一案内の通り今年は沖縄返還50年。1972年5月15日の式典で、当時の屋良朝苗主席は「核抜き・本土並み」でないことを批判しました。奇しくも今年には沖縄の選挙の年です。1月の名護、南城は残念。そして2月27日の石垣市長選も、自・公候補の現職を破ることができず。4月は沖縄市長、9月は知事選、名護市議、宜野湾市長選と続きます。それに7月(頃)に参議院選があります。辺野古の問題もあり、真の「主権回復の戦いの年」です。憲法25条は平和あつてこそそのもの、沖縄の戦いに国民の一人として深い関心を払っています。12月から「沖縄タイムス」を購読してい

ます。沖縄の編集方針に心がひかれます。つまり1879年、当時の政府は500名弱の部隊で首里城に乗り込み、沖縄県設置を宣言し琉球の日本併合を行いました。そして敗戦。このことに込められた意味をかみしめています。

■今や、国際的にも、国内でも歴史が大きく動き出すように思えます。米中対立やロナで急激に浮き彫りになっている矛盾など。そこにどう立ち向かうかが各々に試されていると負います。ロシアがウクライナに侵攻するという信じがたいことが発生し、オミクロンではまだまだ課題が山積みなのに、メディアの扱いもそちらに大きく引つ張られています。かくいう私自身もオミクロンもさることながら、ウクライナ情勢が一番気になってしまします。生まれる前のことで戦争の記憶も、敗戦の日の記憶もありませんが、断片的なニュース映像をみて、ウクライナで多くの命が失われ続けていることを想像するに、暗澹たる気分になってしまいます。21世紀の現代でもこんなことが起るのかと大きなショックを受けました。世論の高まりも一定程度ロシアへの圧力になりうるのではと思ひ、また群衆は一人でも多い方がいいと思ひ渋谷のデモに行きました。ウクライナの人もいて数百人程度が集まっています。だが、歯がゆい思いがつのるばかりです。世界的に自国第一主義的な風潮が強まり、民主主義が後退りしている感覚に襲われますが、ロシア、中国、北朝鮮の問題など、来たる参院選に向けて野党にとって逆風になるだろうという気がします。これを機にとばかり、自民、維新などは核保有の議論を

すべき時と言い始めました。憲法改正にも圧力を強めてくることは確実です。エネルギー問題から、原発回帰の風潮も巻き返してくることでしよう。先週はお手伝いで、福島みずほさんの個別チラシを、住んでいるマンション含めて近所で40軒ほど投函しました。

■一部には「ウクライナへの侵攻は、ロシアにも言い分がある。それは西側の圧力によるもの」との主張をもつてロシアのウクライナ侵攻に理解を示す見解があます。それは誤った認識と言わざるを得ません。たしかに西側にもロシア側にも、夫々に影響力を強め、高めるために様々なことを行ってきた事実があり、お互いに言い分があります。複雑で難しい内容を持つておりどちらが正当とは言えません。ただ、言えることは、ロシアによるウクライナへの侵攻は軍事侵略であり、ウクライナをロシアの言いなりになる国に変えようとするもので正当化できません。私はどのような理由があろうともロシアを絶対に許せません。ロシアに即時停戦・即時撤退を求めます。

■喜多方市も感染者が高止まりの傾向が続いています。私も、3月11日に3回目のワクチンの接種を受けました。今度の参議院選挙は社民党にとって真に崖っぷちの選挙です。国民の支持がなければ党そのものが消滅するのかも知れません。しかし100万人の方々が支援を受けています。希望を持つて闘いを進めていきたいと思ひます。

